

## 意見交換会の概要

## 【実施日等】

| 対 象               | 実施日  | 団体数  | 参加者 | 備 考   |
|-------------------|------|------|-----|---|
| 1 身体障がい者関係団体      | 8/31 | 1団体  | 6人  | ①青森市ろうあ協会   |
|                   | 9/4  | 4団体  | 14人 | ②青森市身体障害者福祉会<br>③うとう心臓友の会<br>④青森県喉摘者福祉団体青森喉友会<br>⑤青森市視覚障害者の会                  |
| 2 知的障がい者関係団体      | 8/31 | 1団体  | 2人  | ⑥NPO 法人青森市手をつなぐ育成会  |
| 3 精神障がい者関係団体      | 8/31 | 1団体  | 1人  | ⑦青森市精神保健家族会   |
|                   | 9/2  | 1団体  | 1人  | ⑧公益社団法人日本てんかん協会青森県支部  |
| 4 障がい児関係団体        | 8/31 | 3団体  | 6人  | ⑨青森市自閉症児・者を持つ親の会<br>⑩青森LD親の会「こんぺいとう」<br>⑪kamekai (カメカイ)                       |
| 5 重症心身障がい児(者)関係団体 | 8/31 | 1団体  | 1人  | ⑫青森県重症心身障害児(者)を守る会  |
| 6 難病患者関係団体        | 9/2  | 4団体  | 8人  | ⑬青森 SCD・MSA 友の会<br>⑭青森 OPLL の会<br>⑮日本 ALS 協会 青森県支部<br>⑯社団法人日本筋ジストロフィー協会 青森県支部 |
| 7 その他の団体          | 8/31 | 1団体  | 2人  | ⑰青森市障がい児・者問題連絡協議会   |
| 合 計               |      | 17団体 | 41人 | ※25団体中17団体が参加   |

## 1 日常生活の状況について

## (身体障がい者関係団体)

- 障がい者が外出するきっかけづくりとして重要な福祉バスを、年1回から2回へ増やしてほしい。(1頁)
- 体育館を借りて運動会で体を動かしたり、また社会参加することにより楽しい時間を過ごせるのに、なかなかその一歩を踏み出せないでいる。(1頁)
- ねぶた祭りなどのイベントに参加できるように手話通訳者を配置してほしい。(1頁)

## (難病患者関係団体)

- 車いす対応の福祉バスを用意し貸し出してほしい。(5頁)



社会参加の機会が足りないと感じている。

(身体障がい者関係団体)

- 人工肛門を付けている人にオストメイト対応トイレが必要なことと、段差で車いすが通れないことは問題なので対応してほしい。 (1頁)
- 議会横の体育館通りについて、電線の地中埋設や歩道を平らにするなど改善してほしい。 (2頁)

(難病患者関係団体)

- 冬に車いすですぐ安心して通れる道と歩道の整備をしてほしい。雪国でも青森市は障がい者に対して優しい街づくりをしてほしい。 (5頁)
- バリアフリーのトイレの整備と清掃管理をきちんとしてほしい。 (5頁)
- 青森駅は、車いすを使用している人にとって不便でバリアフリー化が遅れているので、対策を講じてほしい。 (5頁)
- ノンステップバスをもっと増やしてほしい。 (5頁)



道路の段差やトイレなどバリアフリー化が遅れていると感じている。

(身体障がい者関係団体)

- 日常生活用具給付事業について、以前から見れば品数も増えているがまだまだ足りないので充実してほしい。 (2頁)

(知的障がい者関係団体)

- 愛護手帳Bを持っている人達、グループホームを利用している人達の医療費は大変な負担になっているので、3割負担から1割負担にしてほしい。 (3頁)

(障がい児関係団体)

- 日用品の補助費について、小学2年生でも使えるように年齢制限を解除してほしい。 (4頁)

(重症心身障がい児(者)者関係団体)

- 入院時コミュニケーション支援の利用範囲を拡大してほしい。食事等の介護など短時間の付き添いをヘルパーに手伝ってほしい。 (4頁)

(難病患者関係団体)

- ALSの患者は吸痰が必要。家族が吸痰の技術習得にかかる研修経費は70万円から80万円かかるので、その経費の補助など検討してほしい。 (6頁)



日常生活用具や医療費など経済的負担が大きいと感じている。

(障がい者関係団体)

○民生委員・児童委員はほとんど手話ができないため、普段からコミュニケーションがとれない状況である。(1頁)



地域において意思疎通がはかれず不安を感じている。

(障がい者関係団体)

○子どもと一緒に暮らしている世帯は、除雪の手伝いが来てくれないので雪片付けで困っている。また、除雪後、玄関先へ雪の塊を置かないでほしい。(1頁)



冬期の雪処理に不安を感じている。

(障がい者関係団体)

○現在、点字広報は月1回抜粋版が発行されているが、これを月2回にして内容の充実を図ってほしい。(2頁)



行政からの情報提供が不足していると感じている。

(障がい者関係団体)

○郵便物について、市役所から送付される郵便物だけでも発送した部署と電話番号を記した点字のシールを貼ってほしい。(2頁)

(精神障がい者関係団体)

○帽子に障がいのマークであるリボンをつけているが、バスの中で具合が悪くなくても誰も席を譲ってくれず困った。健常者にこのリボンの意味をもっと知ってほしい。(3頁)

(重症心身障がい児(者)者関係団体)

○障がい者があたりまえにどうと暮らせる社会になってほしい。(5頁)



障がい者への理解と配慮が足りないと感じている。

(障がい者関係団体)

○障害者権利条約等に、情報の利用におけるバリアフリー化（アクセシビリティ）が書かれている。障がい者に対して情報を提供する施設の整備など必要な施策を是非進めてほしい。（1頁）

(その他の団体)

○入院時コミュニケーション支援事業について、4月1日から事業をスタートしたがPRが行き届いていない。多くの方が知り得るように情報をオープンにしてほしい。（6頁）



情報のバリアフリー化を望んでいる。

## 2 就労について

(身体障がい者関係団体)

○障がい者は働く場が少ないので、一般の人と同じく生活できるように雇用の機会、就労場所を増やしてほしい。（1頁）

(精神障がい者関係団体)

○障がい者雇用の場に行ったとき学歴で断られた。また、企業の方からは障がい者を使う気はありませんと言われた。障がい者雇用が何のためにあるのかわからない。（3頁）

(身体障がい児関係団体)

○学校を卒業したらうまく就労につなげてほしい。（3頁）



就労に関する理解が十分ではない。また、高校進学など将来に不安を感じている。

### 3 福祉サービスについて

#### (障がい児関係団体)

- 子育ての相談や対応できる病院など生活に関する具体的な情報が必要。一か所（ワンストップ）で全ての情報が得られるようにしてほしい。（3頁）
- デイサービスはどこもいっばいで不足している。（4頁）

#### (重症心身障がい児関係団体)

- 医療行為のできるショートステイ先を増やしてほしい。（4頁）
- 青森病院は医療ケアのあるショートが取りにくい状況となっているため、ショートステイのベッド数を増やしてほしい。（5頁）
- 自分の子どもが受けられる福祉サービスがわからなくて困った。分かりやすく教えてくれるところはどこなのか明確にしてほしい。（5頁）



医療や福祉サービスなど必要な情報が不足していると感じている。また、デイサービスやショートステイ先を増やしてほしいと望んでいる。

#### (知的障がい者関係団体)

- 相談支援事業所に相談に行かない子がいて、相談支援事業所は人が足りず忙しいからということを聞く。細かな話を聞くなど相談支援事業所と繋げていく役割を手伝わせてほしい。（3頁）



相談支援専門員が不足していると感じている。

#### (重症心身障がい児(者)関係団体)

- 相談支援には生活プランだけでなく、障がい者に必要な車いす等の介護用品に関する知識を持って欲しい。（5頁）
- 相談支援専門員の方から聞いた話では、介護者の担い手が減っていて、介護者不足で対応できない事案が出ている。（5頁）

(身体障がい者関係団体)

- 病院などに長く入院する時は、ホームヘルパーを使いたい。また安全安心な入院生活を送るために看護師等の資質の向上と充実を図ってほしい。(2頁)



介護者の不足やサービスの質に不安を感じている。

(障がい児関係団体)

- 小さい子どもから大人まで、二次障害、特に不登校や不適応で困っている家族はたくさんいる。(4頁)



発達障がいの子どもの将来に不安を感じている。

## 4 療育や教育について

(障がい児関係団体)

- 小・中学校までは特別支援学級で進学できたが、高校は別に自分で探さなければならぬにつまづいた。高校受験は、市も教育委員会と連携をとって支援する仕組みを強めてもらいたい。(3頁)
- 教育と福祉、医療の連携をもっと深めるべきである。(4頁)
- 就学にあたり何時ごろから見学や書類関係の準備をしたらよいか、またどこに行けばよいかなどの情報を早めにほしい。(4頁)

(重症心身障がい児(者)関係団体)

- 医療と福祉と教育が連携して、生まれた時からの相談支援体制を充実してほしい。(4頁)



教育と福祉、医療が連携した支援体制を望んでいる。

## 5 差別や偏見について

### (身体障がい者関係団体)

- 子ども達の障がい者に対する理解が足りない。障がい者を偏見の目でみる場面があるため、そういった差別を無くしてほしい。（1頁）

### (精神障がい者関係団体)

- 精神障がいは治らないし偏見が根強い病気のため、理解してほしい。（3頁）
- ハローワークに行ったとき、治ってから来てくださいと言われ嫌な思いをした。（3頁）



差別や偏見を感じる場面がある。

## 6 防災について

### (身体障がい者関係団体)

- バスや電車で災害時など緊急時の情報を瞬時に電光掲示板に表示し伝達してほしい。（1頁）
- 災害時の避難について、聞こえないのでどのように避難すればよいのか不安なため防災訓練を行ってほしい。また避難所を教えてほしい。（1頁）
- 視覚障がい者に対し、年に1回くらいは防災訓練を行ってほしい。また、避難方法や福祉避難所についての研修を行ってほしい。（2頁）
- 一日も早く視覚障がい者集まれる避難所を決めてほしい。（2頁）



避難方法や避難所に不安を感じている。

## 意見交換会で各団体からいただいた意見の概要

| 団体名   | 意見の内容  |
|---|--|
| <b>①青森市ろうあ協会</b><br>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】   | ・障害者権利条約等に、情報の利用におけるバリアフリー化（アクセシビリティ）が書かれている。障がい者に対して情報を提供する施設の整備など必要な施策を是非進めてほしい。 |
|   | ・バスや電車で災害時など緊急時の情報を瞬時に電光掲示板に表示し伝達してほしい。  |
|   | ・手話は言語である。聴覚障がい者のために手話を使える環境を整えてほしい。   |
|   | ・民生委員・児童委員はほとんど手話ができないため、普段からコミュニケーションがとれない状況である。                                  |
|   | ・ねぶた祭りなどのイベントに、障がい者も参加できるように手話通訳者を配置してほしい。   |
|   | ・手話通訳者を同行して診察を受けてもなかなか医者の理解が得られない場面が多々ある。障がい者への配慮について行政から医療機関に働きかけてほしい。            |
|   | ・子ども達の障がい者に対する理解が足りない。障がい者を偏見の目でみる場面があるため、そういった差別を無くしてほしい。                         |
|   | ・災害時の避難について、聞こえないのでどのように避難すればよいのか不安なため防災訓練を行ってほしい。また避難所を教えてください。                   |
|   | ・災害時に私たちを援護してくれる方たちにも手話ができるようになってほしい。  |
|   | ・聴覚障がい者の老人ホームを早めに作ってほしい。   |
| <b>②青森市身体障害者福祉会</b><br>【平成 27 年 9 月 4 日(金)】 | ・障がい者が外出するきっかけづくりとして重要な福祉バスを、年 1 回から 2 回へ増やしてほしい。                                  |
|   | ・子どもと一緒に暮らしている世帯は、除雪の手伝いが来てくれないので雪片付けで困っている。また、除雪後、玄関先へ雪の塊を置かないでほしい。               |
|   | ・障がい者は働く場が少ないので、一般の人と同じく生活できるように雇用の機会、就労場所を増やしてほしい。                                |
|   | ・若い人は会に参加しない。体育館を借りて運動会で体を動かしたり、また社会参加することにより楽しい時間を過ごせるのに、なかなかその一歩を踏み出せないでいる。      |
| <b>③うとう心臓友の会</b><br>【平成 27 年 9 月 4 日(金)】    | ・人工肛門を付けている人にオストメイト対応トイレが必要なことと、段差で車いすが通れないことは問題なので対応してほしい。                        |
|   | ・県病のスーパーメガの前のバス停は、買い物客が一行に並ぶため車いすの障がい者は通ることができない。もっと障がい者に対する配慮が必要である。              |



| 団体名  | 意見の内容  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者は足（車）がない。もっと障がい者が外に出る機会を増やしてほしいので福祉バスを年1回ではなくもっと回数を増やしてほしい。</li> <li>・企業はいつでも障がい者を雇い入れる環境を作してほしい。</li> <li>・自家用車給油券について、指定の給油所は割高であるため一般の給油所と同じく安い給油ができるようにしてほしい。</li> <li>・障がい者に対するリハビリの体制が少ないように感じるので課題として考えていく必要がある。</li> </ul>   |
| <p><b>⑤青森市視覚障害者の会</b><br/>【平成27年9月4日(金)】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バスの音声案内について、運行上のお知らせは聞き取りづらいので改善してほしい。</li> <li>・日常生活用具給付事業について、以前から見れば品数も増えているがまだまだ足りないので充実してほしい。</li> <li>・点字ブロック上に自転車、バイクなど様々な障害物を置いているので、もっと市民に点字ブロックの意義を周知し、歩行の安全を確保してほしい。</li> <li>・議会横の体育館通りについて、電線の地中埋設や歩道を平らにするなど改善してほしい。</li> <li>・郵便物について、市役所から送付される郵便物だけでも発送した部署と電話番号を記した点字のシールを貼ってほしい。</li> <li>・新庁舎の建設について、初期の段階から視覚障がい者の意見も聴取してほしい。</li> <li>・現在、点字広報は月1回抜粋版が発行されているが、これを月2回にして内容の充実を図ってほしい。</li> <li>・青森市のホームページについて、視覚障がい者も音声パソコンによりかなり利用しやすくなったが、PDFファイルに関し最初のページの次に最後のページを読み上げるため、改善してほしい。</li> <li>・年に1回くらいは防災訓練を行ってほしい。また、避難方法や福祉避難所についての研修を行ってほしい。</li> <li>・視覚障がい者に対して新しい施策を実施する場合、初期の段階から意見を聴取してほしい。</li> <li>・病院などに長く入院する時は、ホームヘルパーを使いたい。また安全安心な入院生活を送るために看護師等の資質の向上と充実を図ってほしい。</li> <li>・一日も早く視覚障がい者集まれる避難所を決めてほしい。</li> <li>・ヘルパーには家事を優先するため、読み書きは最後になり時間切れになる。時間を延ばして読んだり書いたりしてもらおう方法を考えてほしい。</li> </ul> |

| 団体名   | 意見の内容  |
|---|--|
| <p><b>⑥NPO 法人青森市手をつなぐ育成会</b><br/>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛護手帳 B を持っている人達、グループホームを利用している人達の医療費は大変な負担になっているので、3 割負担から 1 割負担にしてほしい。</li> <li>・毎週木曜日、青森市総合福祉センターの 1 室を借りて障がいのある子の親が集まる場「じらいむ」を開催している。毎日、居場所として使用できるように開放してほしい。また費用も援助してほしい。</li> <li>・会員は高齢化のため年々減っている。法人後見になるためにはある団体の会員にならないと保険に入れないためその手続をしているが、もっと行政と一緒に親亡き後のことを考えてほしい。</li> <li>・相談支援事業所に相談に行かない子がいて、相談支援事業所は人が足りず忙しいからということを知るので、細かな話を聞くなど相談支援事業所と繋げていく役割を私たちの団体に手伝わせてほしい。</li> </ul>   |
| <p><b>⑦青森市精神保健家族会</b><br/>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会は総会を開き情報交換などしているが、年々参加者は減っている。高齢化もあるのでもっと行政にお金も含めていろいろ支援してほしい。</li> <li>・精神障がいには治らないし偏見が根強い病気のため、理解してほしい。</li> </ul>  |
| <p><b>⑧公益社団法人日本てんかん協会青森県支部</b><br/>【平成 27 年 9 月 2 日(水)】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・帽子に障がいのマークであるリボンをつけているが、バスの中で具合が悪くなくても誰も席を譲ってくれず困った。健常者にこのリボンの意味をもっと知ってほしい。</li> <li>・てんかんで施設に入所できない人がいたので、暮らせる場所を充実してほしい。</li> <li>・市の会議室を借りたいが、参加者から参加費（資料代）をもらおうと貸せないということだったので改善してほしい。</li> <li>・アウガの会議室について、一定の会員がいないと貸してもらえないので、少人数でも使えるようにしてほしい。</li> <li>・ハローワークに行ったとき、治ってから来てくださいと言われ嫌な思いをした。</li> <li>・障がい者雇用の場に行ったとき学歴で断られた。また、企業の方からは障がい者を使う気はありませんと言われた。障がい者雇用が何のためにあるのかわからない。</li> <li>・市営バスの対応はひどい。市営バスの職員に教育をしてほしい。</li> </ul> |
| <p><b>⑨青森市自閉症児・者を持つ親の会</b><br/>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての相談や対応できる病院など生活に関する具体的な情報が必要。一か所（ワンストップ）で全ての情報が得られるようにしてほしい。</li> <li>・学校を卒業したらうまく就労につなげてほしい。</li> <li>・知的発達遅れの遅れがなく大学まで卒業したのに、就職がうまくいかず失敗の連続で精神疾患を患う方もいる。</li> <li>・小・中学校までは特別支援学級で進学できたが、高校は別に自分で探さなければならずにつまづいた。高校受験は、市も教育委員会と連携をとって支援する仕組みを強めてもらいたい。</li> </ul>   |

| 団体名  | 意見の内容   |
|--|---|
| <p>⑩青森 LD 親の会「こんぺいとう」<br/>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】<br/>(学習障害の子を持つ親の会)</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子どもから大人まで、二次障害、特に不登校や不適應で困っている家族はたくさんいる。</li> <li>・教育と福祉、医療の連携をもっと深かめるべきである。</li> <li>・どんな障がいでも、その人を知る・理解する、そういう場が必要である。</li> <li>・子ども達が大きくなると、子ども達自身が二次障害という不適應、不安、そういった精神の方の病気、疾患になる場合がありまなくなっている。</li> <li>・ボランティアの学生に頼ってきたが、子ども達が大きくなり就労の相談をしたくても、相手は学生で年下のため仕事の相談ができずストレスになっているので、相談の場が必要。</li> <li>・子どもの障がいで、市外や県外の病院に行って大変な思いをした。一個人まで情報が届かず、また公的な場所がなく、自分たちで経済的に苦しい中やってきた。もっと行政に経済面の補助や活動の場の支援をしてほしい。</li> </ul> |
| <p>⑪kamekai (カメカイ)<br/>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】<br/>(未熟児、病児、障がい児を持つ親の会)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・官庁付近の点字ブロックの補修をしてほしい。</li> <li>・日用品の補助費を小学 2 年生でも使えるように年齢制限を解除してほしい。</li> <li>・医療的ケアが必要な子が通える保育園がほしい。横浜にあるカンガルー保育園が理想。</li> <li>・デイサービスはどこもいっぱい不足している。</li> <li>・障がい児が生まれた、もしくは障がいになりましたというときに、相談窓口を一つにして欲しい。</li> <li>・療育なり検査なり、受けられるサービスはあるとかないとかの情報を一か所で教えてほしいしコーディネートしてほしい。</li> <li>・保育園の事情で障がい児保育にならなくても、加配をつけるようにしてほしい。</li> <li>・就学にあたり何時ごろから見学や書類関係の準備をしたらよいか、またどこに行けばよいかなどの情報を早めにほしい。</li> </ul>                  |
| <p>⑫青森県重症心身障害児(者)を守る会<br/>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】</p>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と福祉と教育が連携して、生まれた時からの相談支援体制を充実してほしい。</li> <li>・医療行為のできるショートステイ先を増やしてほしい。</li> <li>・「あすなる」で医療ケアの必要な人のショートステイの受け入れをしてほしい。</li> <li>・西地区だけでなく、東・南地区にもショートステイができる施設、場所がほしい。</li> <li>・青森病院は医療ケアのあるショートステイが取りにくい状況となっているため、ショートステイのベッド数を増やしてほしい。</li> <li>・入院時コミュニケーション支援の利用範囲を拡大してほしい。食事等の介護など短時間の付き添いをヘルパーに手伝ってほしい。</li> </ul>  |

| 団体名  | 意見の内容   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重症心身障害児（者）でも入所できるようなケアホームがほしい。</li> <li>・ケアホーム、グループホーム、シェアハウスの設置を希望する。</li> <li>・高齢の親と子が一緒に入所できる施設がほしい。</li> <li>・障がい者があたりまえにどうと暮らせる社会になってほしい。</li> <li>・青森駅には荷物専用のエレベーターしかないので、普通に使えるエレベータを設置してほしい。</li> <li>・公共機関や大型店舗以外に、車いす用の駐車場の設置を拡大してほしい。</li> <li>・医療的ケアの対象者を受け入れてくれる施設が少ない。また医療的ケアが必要なために受け入れを断られたケースもあるので対応してほしい。</li> <li>・自分の子どもが受けられる福祉サービスがわからなくて困った。分かりやすく教えてくれるところはどこなのか明確にしてほしい。</li> <li>・相談支援には生活プランだけでなく、障がい者に必要な車いす等の介護用品に関する知識を持って欲しい</li> <li>・相談支援員の方から聞いた話では、介護者の担い手が減っていて、介護者不足で対応できない事案が出ている。</li> </ul> |
| <p><b>⑬青森 SCD・MSA 友の会</b><br/> <b>【平成 27 年 9 月 2 日(水 )】</b><br/> <small>(脊髄小脳変性症・多系統萎縮症)</small></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議をするために会議室を借りているがお金がない。元気プラザの会議室を無料で貸し出してほしい。</li> <li>・新庁舎の建設について、障がい者の会が無料で使用できる 50 名程度が入れる会議室の貸し出しを検討してほしい。</li> <li>・冬に車いすで安心して通れる道と歩道の整備をしてほしい。雪国でも青森市は障がい者に対して優しい街づくりをしてほしい。</li> <li>・バリアフリーのトイレの整備と清掃管理をきちんとしてほしい。</li> <li>・青森市の玄関口である青森駅がみすぼらしいし、車いすを使用している人にとって大変不便でバリアフリー化が遅れているので、対策を講じてほしい。</li> <li>・福祉バスを借りて年 1 回小旅行をしているので、車いす対応の福祉バスを用意し貸し出してほしい。</li> <li>・訪問リハビリ、包括支援センターは利用エリアが設けているが利用したい病院があっても距離で制限するのはおかしいので工夫してほしい。</li> </ul>   |
| <p><b>⑭青森 OPLL の会</b><br/> <b>【平成 27 年 9 月 2 日(水 )】</b><br/> <small>(後縦靭帯骨化症)</small></p>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・万太郎堰の道路は桜の根が道路から出てデコボコしている。車いすで通れるような状況ではないため整備してほしい。(5 頁)</li> <li>・ノンステップバスをもっと増やしてほしい。</li> <li>・バスの運転手の対応が悪いので、接客態度を改善してほしい。</li> </ul>   |

| 団体名   | 意見の内容   |
|---|---|
| <p>⑮<b>日本 ALS 協会 青森県支部</b><br/>【平成 27 年 9 月 2 日(水)】<br/>(筋萎縮性側索硬化症)</p>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所の機能について、県と市が一体的になっていないものがたくさんあるので、関係をしっかりと整理してほしい。</li> <li>・相談から手続きまでの行政窓口を一つにしてほしい。</li> <li>・市内のどこに医者がいるのか、またいない場合はどうすれば良いのかなどの情報を提供してほしい。</li> <li>・冬の病院の駐車場は車いすのマークが見えないためわからない。公共施設の病院だけでも除雪はしっかりと、また障がい者のための駐車場をしっかりと確保してほしい。</li> <li>・車いすの方は市役所の正面も裏口も守衛など人の手を借りないと入れないので、一人で入れるように整備してほしい。</li> <li>・ALS の患者は吸痰が必要。家族が吸痰の技術習得のための研修経費は 70 万円から 80 万円かかるので、その経費の補助など検討してほしい。</li> <li>・障がい者雇用について、ALS は病気の進行に個人差がある。進行の遅い方への就労支援と企業の理解が必要である。</li> <li>・行政が基本計画を立てるときに医療と介護と一緒にやって、手がかかる介護の施策に人をシフトすると効果的であるので検討してほしい。</li> </ul> |
| <p>⑯<b>社団法人日本筋ジストロフィ</b><br/><b>ー協会 青森県支部</b><br/>【平成 27 年 9 月 2 日(水)】<br/>(筋強直および筋萎縮症)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが普通の学校に行きたい、親が子どもを普通の学校に入りたいのに学校側が受け入れてくれないといった問題があるので、本人の希望が叶うようなシステムというか環境づくりをしてほしい。</li> <li>・青森市で大会を開催した際、大勢の障がい者の方がホテル等に宿泊した際、障がい者用のトイレが各階になく大変だった。青森市が障がい者に優しくなれば全国から人が集まって感動して帰られる。</li> <li>・ヘルパーの利用時間等を見直してほしい。</li> <li>・市役所や公的機関の窓口の対応が悪いので改善してほしい。</li> <li>・今回のように、障がい者と行政がフェイス・トゥ・フェイスで顔を合わせて意見交換する場、仕組み作りを継続してほしい。</li> </ul>   |
| <p>⑰<b>青森市障がい児・者問題連絡</b><br/><b>協議会</b><br/>【平成 27 年 8 月 31 日(月)】</p>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労について、障がい者の就労は B 型が圧倒的に多い。可能性がある方には一般就労の可能性を開いてほしい。</li> <li>・入院時コミュニケーション支援事業について、4 月 1 日から事業をスタートしたが P R が行き届いていない。多くの方が知り得るように情報をオープンにほしい。</li> <li>・障がい者のまちづくり条例について、今回の計画の中にどうつくるのか明記してほしい。</li> </ul>  |

※④青森県喉摘者福祉団体青森喉友会からの意見はなかった。